

人は誰でも美しき時間旅行者

澤田康彦氏 暮らしの手帖
編集長

11月例会は講師に「暮らしの手帖」編集長の澤田康彦氏を迎えた。学生時代から現在まで数多くの地を訪れてきた澤田氏が、旅の体験や仕事、人生について、幅広く語った。

澤田氏は大学在学中から、後に人気作家となる椎名誠氏らが関わった「本の雑誌」編集部アルバイトとして出入りし、椎名氏が主催する東ケト会に参加した。離島でのキャンプ活動を通じて、カメライストで作家の野田知佑氏らとも親交を結ぶようになる。東ケト会での体験や旅の達人だった椎名氏との親交のなかから、澤田氏は「旅はどこへ行くかではなく誰と行くか」、事を行う際には「何をするかより誰とするか」が重要だということを知ることになったという。

講演では仕事観や人生観についても触れた。澤田氏は編集者としての活躍だけでなく、映画評論や、椎名氏が設立した映画製作会社「ホネ・フィルム」への参画により、映画のプロデュースも行い、さらには短歌の会を主宰するなど多彩な活動で知られる。多方面での活躍と広範な趣味の領域は関連しており、「楽しい遊びが楽しい仕事へ形を変える」という考えが多彩な活動の背景にある。

澤田氏は「コミュニケーションは手段ではなく目的だ」と説明し、仕事においても人生においても、人との交流に重きを置く姿勢を明確にしている。現在、編集長を務める「暮らしの手帖」にはそうした考えが色濃く反映されている。

70年続く秘訣は丁寧な仕事

「暮らしの手帖」は、1948年に大橋鎮子と花森安治のコンビで創刊した老舗雑誌。広告を一切掲載しない方針を貫き、庶民に代わって厳格な商品テストを行い、その結果を手加減なく掲載した。読者にとって本当に役立つ情報を提供し続け、2018年に創刊70周年を迎える。16年には雑誌出版をモ



Profile

さわだ やすひこ ●1957年滋賀県生まれ。上智大学卒業後、マガジンハウス入社。雑誌「BRUTUS」「Tarzan」の担当編集者や書籍部編集長などを歴任。独立後フリー編集者として活躍し、2015年暮らしの手帖社に招かれる。16年から現職。

デルにしたNHK連続テレビ小説「とと姉ちゃん」が放送されたことで、あらためて注目を集めた。

澤田氏は15年に同社に招かれ、16年から編集長を務めた。初めて手掛けた16年1月発行の第80号では早速、「人」をクローズアップ。それまでの誌面に比べて人物が多く登場するようになった。第83号では「スマートフォンで撮る家族の写真」を特集し、三世代、あるいは家族で素敵な笑顔などの写真を撮影する方法を紹介した。

澤田氏は、創刊編集長の花森氏にならった丁寧な仕事の重要性にも言及した。たとえば料理レシピを掲載する場合、必ず編集部員がレシピに基づいて試作し、紹介したとおりに作れるかを検証する。受け継がれるこうした丁寧な誌面作りと、それを貫いてきた強さも、「暮らしの手帖」が70年間続いてきた理由の一つといえる。分野に関わらずどのような仕事にも求められる丁寧な仕事の重要性は、旅行業界人にも響くものだった。